

▶じいば school のはじまり

交通手段が限られ、ゲートボール活動などの休止により、社会活動の機会が減っている方も多く、住民の集いの場の確保は喫緊の課題となっています。そんな折、当時九州保健福祉大学の小川敬之教授（現在京都橘大学教授）より、デリバリー作業（自宅での軽作業）の実施について提案を受け、本村の特色を活かした木工加工製品と村内で消費されるゴミ袋作成を行うこととなりました。

作業を実施するにあたっては、小集落単位での活動からスタートし、徐々にその活動範囲を広げているところです。

▶じいば school の目的

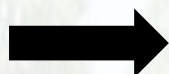
社会参加の機会が少なくなった高齢者の方に外出する機会を設け、数名の仲間と会話を楽しみながら手作業を行い、できあがった商品を販売しその売り上げの一部を工賃として支給することで、生きがいとやりがいを感じ、併せて健康増進を図ることを目的としています。

皆さんの作ったものが村内で消費されることで、「地域貢献」活動にもつながります。また、村外の方が手に取ることで村のPR（社会貢献）にもつながることを期待しています。

▶名称の由来

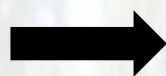
「じいば」は①じいじばあばと②地場産品をかけており、「school」は“習うは一生”にちなんでいます。

じいば



①じいじばあば
②地場産品

School
スクール



習うは一生

【取り組み紹介】

▶木工加工

粗く削り出された諸塚産の木材を村内の高齢者が1つ1つ手作業で磨き販売しています。製作は作業所が1ヶ所、自宅での個人作業が1名で活動し、現在はしゃもじ、木べら、絵馬の3つの商品を作っています。

元気な高齢者のご長寿パワーと緑豊かな諸塚村の特色を活かした取り組みの1つです。

▶可燃物ゴミ収集袋の作成

諸塚村指定の可燃物ゴミ収集袋の作成、販売をしています。

ゴミ袋は20Lと45Lの2種類で、透明の袋に氏名記入シールを貼り付け、畳む、梱包するという作業を現在4つの作業所で取り組んでいます。指先に集中して作業を行うため、最初は仲間と会話を楽しむ余裕などありません。ですが、作業を重ねる毎に、会話をしながら、歌を歌いながらも指が動くようになります。

作成したゴミ袋は、諸塚村商工会に納品し、村内の店舗で販売されます。